

Abundant IgG4-positive plasma cell infiltration characterizes chronic sclerosing sialadenitis (Kuttner's tumor)

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/14726

学位授与番号	甲第 1760 号
学位授与年月日	平成 18 年 3 月 22 日
氏 名	北川 諭
学位論文題目	Abundant IgG4-positive plasma cell infiltration characterizes chronic sclerosing sialadenitis (Küttner's tumor) (慢性硬化性唾液腺炎の病態形成における IgG4 陽性形質細胞浸潤の関与について)
論文審査委員	主 査 教 授 古川 仍 副 査 教 授 大井 章史 山本 悦秀

内容の要旨及び審査の結果の要旨

慢性硬化性唾液腺炎は原因不明の唾液腺炎で、その病態形成に免疫異常の関与が示唆されている。近年、IgG4 に関連した免疫異常が自己免疫性膵炎などの硬化性病変の病態形成に関与していることが報告されている。膵外臓器の硬化性病変と IgG4 との関連についてはよく分かっておらず、今回、慢性硬化性唾液腺炎の病理学的特徴を IgG4 の観点から検討した。

対象は慢性硬化性唾液腺炎 12 例で、唾石症 8 例とシェーグレン症候群 13 例を対照とした。慢性硬化性唾液腺炎の臨床的特徴と病理学的特徴を検討した。病理組織学的に特殊染色と免疫染色を用いて、閉塞性静脈炎の有無、IgG 陽性細胞や IgG4 陽性細胞の浸潤に関して検討した。得られた結果は以下のごとく要約される。

(1) 慢性硬化性唾液腺炎の 5 例では唾液腺外臓器に硬化性病変の合併を認めた（自己免疫性膵炎 2 例、硬化性胆管炎 2 例、涙腺腫張 1 例）。(2) 2 例で抗核抗体陽性、5 例で高 γ -グロブリン血症、4 例で血清 IgG 値の上昇を認め、これらの自己免疫異常は唾液腺外病変を有する症例でより高頻度に見られた。(3) 慢性硬化性唾液腺炎は唾液腺のびまん性もしくは限局性の腫瘤状腫大を特徴としていた。

(4) 組織学的には導管周囲と小葉内に多数のリンパ球・形質細胞浸潤と線維化が見られ、既存の腺組織は高度に萎縮していた。(5) 慢性硬化性唾液腺炎の全例で閉塞性静脈炎が見られたが、唾石症やシェーグレン症候群では見られなかった。(6) 慢性硬化性唾液腺炎では唾石症とシェーグレン症候群に比して有意に多数の IgG 陽性形質細胞と IgG4 陽性形質細胞の浸潤が見られ、IgG4/IgG 陽性細胞比は慢性硬化性唾液腺炎で有意に高かった。

慢性硬化性唾液腺炎の病理学的特徴は自己免疫性膵炎とよく類似していた。特に、IgG4 陽性形質細胞の多数の浸潤を伴っていたことは興味深い。健常人では IgG4 は血中 IgG の 6% 以下を占めるに過ぎないが、慢性硬化性唾液腺炎では病変内に浸潤する IgG 陽性細胞の 40% 以上が IgG4 陽性であり、IgG4 に関連した免疫異常が慢性硬化性唾液腺炎の病態形成に関与している可能性が示唆された。

以上より IgG4 に関連した免疫異常が慢性硬化性唾液腺炎の病態形成に関与していることが明らかとなった。本研究は慢性硬化性唾液腺炎の病態解明に貢献するものであり、学位論文に値する研究として評価された。